総合的な学習の時間　活動案

米からかかわる世界

5年1組　男子　16名
女子　18名
計　34名

指導者　小野　博史

現在,経済や科学技術の発達によって子どもたちが異文化に触れる機会は増えている。実際に,学級内でも渡航経験を持つ児童もおり,外国人と交流を持った経験を持つ児童も相当数いる。

また,科学技術の発達は多くのコミュニケーションの手段を生み出した。しかし,そのうちのいくつかは相手意識をもたずに交流ができ,そこに対しての責任感や人間関係の希薄さも生み出している。

「自立と共生」という言葉がある,これは二つの要素をあらわしているがそのどちらかが欠けても成立しない。共生の心を持たないものを自立しているとは言えず、また自立無きものに共生もないからである。これは,国際社会のかかわりにもそのままあてはめることができる。各国,各民族は互いに主張し,相手の立場,心情,習慣をわかりあうことによって各国の関係は成立し,わかろうとしないことによる危うさも見える。そして,その関係は学級内にあてはめることができる。地球市民の礎はまさに各学級に存在する。

1，単元について

コミュニケーションについては低学年において自己を表現することを第一歩としている。やがて,相手意識をもってかかわること,交流すること，力を合わせることに発展していき,認め合う心を持つ。

しかし,子どもによってはそういった力を得ず,自己表現ができない児童,自己表現ばかりで相手意識を持たない児童も見られる。これは本学級に限らず社会一般にも当てはまることといえよう。

本単元においては，国際理解教育を行う中での「かかわる意欲」「かかわる力」の部分を主張している。

異文化と触れることでの「知りたい」「話したい」「わかりたい」という欲求を言葉の壁を乗り越えてなんとか具現化していく姿を見てほしいと考える。

つまり，自分と相手がそれぞれ自意識と相手意識をもちながら，より，かかわりあうためにコミュニケーションの手段を欲し，それをあらゆる手段を使って具現化していくという過程が本単元であり，本時である。

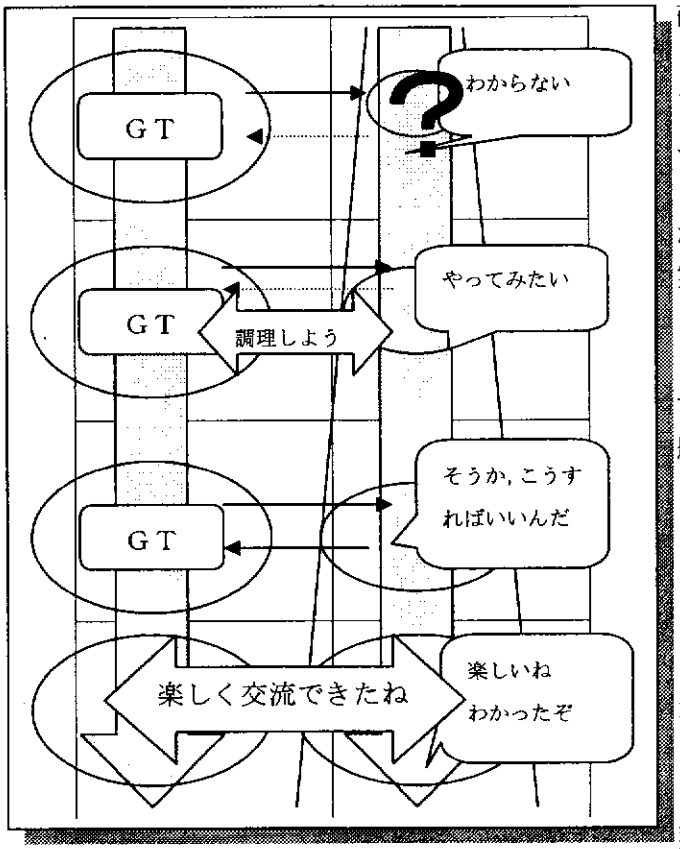
また，本単元においての「かかわり合い」はゲストティーチャーに対してのみではなく，課題解決に向けて互いに協力する姿も「かかわり合う姿」ととらえている。限界のある自分の力のみでなく，それぞれが少しずつ情報を集めることで，子供たち同士の「かかわり合う力」を育てていきたい。

単に英語力や異文化についての知識をつけるのでなく，自分と自分たちとゲストティーチャーの相互の自意識と相手意識を育て，かかわる力をつけたいと考えている。

2，研究の視点にかかわって

「活動の価値を明らかにするふれ合い・かかわり合いをどう構成するか」が本年度の研究の視点である。

本単元，本時においては，子供たちが自ら相手とかかわり合う場面を段階的に設定した。



このことにより，子供たちは相手とまったくコミュニケートとできない状態から，相手を理解しもっとわかり合いたいという場面を実感することになる。

耳にしても理解できない言葉に対して，料理という題材を通して，興味，関心を深める。

⇩

かかわるためのきっかけとして，事前に表現を用意してゲストティーチャーとかかわる。

⇩

かかわりからわかった言葉をきっかけに友達と協力しながら更に理解を深める。

⇩

ここまでに覚えた英語表現や伝えるための手立てを使うことによって自分なりのコミュニケーションを作り出していく。

と，いう段階を追ってコミュニケーション能力が高まるための単元を構成した。

３、単元の構成

（１）年間計画（５５時間扱い）

	英語活動	交流・体験活動	調べ・準備活動	
4月	異文化との出会い（4） ＡＬＴとの出会い 挨拶しよう ゲームや歌	アメリカのことを教えてもらおう	もしも世界が１００人の村だったら 様々な情報から	
5月	いろいろな人がいるな 日本とは違うな もっと知りたいな オーストラリア政府観光局藻岩南支局（4） ゲームや歌 自己紹介しよう 質問してみよう ふんふん，わかったぞ		聞いたことをもっと調べてみよう	情報
6月	ゲームや歌 聞いてみよう・伝えてみよう（8）		わかったことをまとめよう	
7月	聞き取ってみよう ・ ビンゴゲーム ・ 料理のレシピ ゲームや歌			
8月	きっかけの言葉 Excuse me Please Etc... 質問を用意しよう ゲームや歌	日本の水産業とのかかわりを聞いてみよう	水産業での海外とのかかわりを調べてみよう	社会科
9月	How about you? Are you? Etc... 交流のための英語表現（１０）	日本の工業とのかかわりを聞いてみよう	工業での海外とのかかわりを調べてみよう	社会科

	英語活動	交流・体験活動	調べ・準備活動	
10月		交流しよう（4） 今まで教わったことを幼稚園に教えに行こう		
11月	聞いてみよう・伝えてみよう・調べてみよう・試してみよう（7） 日本の米とのかかわりを聞いてみよう 世界の米料理を教えてもらおう	本時 世界の米料理を作ってみよう	世界の米料理を調べよう	社会科 家庭科
12月	世界の正月を体験しよう（8） 世界の正月を教えてもらおう		世界の正月を調べよう	家庭科 図工
1月		旧正月ってなんだ？ 保護者の方と旧正月を楽しもう	手伝ってもらおう！	
2月	招待しよう！		調べよう 食べ物 日本との違い 習慣 装飾	
3月				

時数の確保

総合的な学習の時間	国際理解・英語活動	４５コマ
社会科		４コマ
家庭科・図工		各３コマ
		計５５コマ

（2）小単元構成（7時間扱い）

聞いてみよう・伝えてみよう・調べてみよう・試してみよう（7）

	英語活動	交流・体験活動	調べ・準備活動	
1	日本の米の事を聞いてみよう アメリカの米料理を聞いてみよう		日本の米は？ 米料理ってあるの？	社会科
2	いろいろな種類があるね 日本と似てるものもあるね ご飯じゃないみたいだよ		世界の米料理を調べてみよう	情報教育
3	レシピを聞いて材料を知ろう	英語だとこう言うのか こんなものも使うのか どんな料理だろう？		
4	こんな言葉があったらいいな 伝えるために必要な準備		こんなところに気をつけて 調理のために必要な準備	家庭科
5	手順を聞いて作ってみよう 相談しよう協力しよう 自分の国の料理を大切にしているね		力を合わせて調理 本　時	家庭科
6	できたぞ！ 楽しかったね 完成！食べてみよう			
7	お米料理でもずいぶん違うね 作り方 味付け 食べ方	日本と違うね 主食じゃないんだ	またやろう こんな英語を覚えたよ こんどは何をする？	

4、本時のねらい

活動の価値を明らかにするふれ合いかかわり合いの構成

◎まずは，積極的なかかわり合いを

かかわり合いの対象は，ゲストティーチャーと児童同士の２つがある。積極的なかかわり合いは，問題意識がしっかりとしていることが土台である。本時での表れは，「ゲストティーチャーとじっくり話して，米料理に取り組む」ことである。子供たちが，はっきりしないレシピのまま料理をすることは考えにくい。また，料理という活動が介在することで，言葉に対する抵抗感を少なくすることも積極的なかかわり合いを後押しすると考えている。

ただ，本当に大切にするべきものは，ゲストティーチャーの先生の思いにこたえたい，なんとしてでも理解して料理を作りたい，もっとわかりたいという思いからくる，「いい料理にしたい」という強い問題意識である。「レシピをもっと詳しく知りたい。」「ゲストの先生に積極的に聞いてみよう。」といった積極的なかかわりの姿を本時の中で期待し，本時を構成した。

◎積極的なかかわり合いの中にみえてくるもの

協力する態度…仲間とのかかわり合いの姿はそのまま協力する姿と考えてよい。それだけの育ちをしている子供たちである。問題意識がはっきりとしていることが前提であることは言うまでもない。

相手意識…ゲストティーチャーが伝えたいことは何か，熱心に教えてくださるのはなぜか，を意識した活動となってくると考えている。自分たちの文化である料理をしっかりと伝えたい，自分の言葉できちんと伝わるようにふれ合いたい，というゲストティーチャーの思いを感じていくことを大切にしたい。

また，自分の文化を伝えるゲストティーチャーにとって，子供たちの取り組みが十分満足が行くように，そしてその満足度は料理の出来ではなく，子供たちとの豊かなかかわりに由来するものと考える。

本時に至るまでの活動の中でも培っていく部分である。

◎自分たちの活動に価値を感じること

本時の中では，かかわり合いふれ合いを深めながら，「料理がうまく出来上がってよかった。」「ゲストの先生に話しかけられたからよかった。」「たくさんことを話し合えて楽しかった。」という言葉で活動を締めくくることになる。

この言葉の中に，追求していく楽しさ，かかわり合いふれ合う楽しさが含まれていることに目を向けていきたい。

本時だけでなく単元全体を通した活動の価値は，

- 料理や英語といった異文化とふれ合う活動を深めていく中で，頑張って英語の壁を乗り越えた，頑張って料理を作り上げた，という子供側の思いである。
- しだいに大きくなっていくかかわり合いふれ合いを通して，言葉を知るおもしろさ，楽しさを感じることである。
- 自分の活動をしっかりと見つめながら学習できたことに気付く，そして一緒に作り上げた一体感を感じることや，「どうしよう」「こうすればいい」「こうしよう」と考えていくことである。

◎教師の役割

本時においてはコーディネーターとして，ゲストティーチャーと子どもがともに交流できる環境を整えることが必要となる。そこで次のような手立てを取り交流を支えていく。

○ かかわりに必要な言葉をあらかじめ学習しておく

人とのかかわりには不可欠な言葉（年度当初より学習）

出会い，挨拶の言葉	Nice to meet you My name is ○○	など
きっかけ，お礼の言葉	Excuse me Thank you	など
反応の言葉	Yes No O.K I understand	など

本単元で必要な言葉

It's O.K?　Please show me. How mach. How many　など

○ ともに問題解決の場にいるということを実感させる

米という題材は，５年生の社会科で学習し，毎日食卓で出会う身近な素材である。また，調理は家庭科で扱い，子供たちにとって興味深い活動である。そしてどんな文化にも共通の問題解決の場であるため言葉が理解できなくてもともに楽しむことができる。

５、本時の目標

- 相手の伝えたいことを理解しようとする。
- 協力して相手とコミュニケーションをはかろうとする。
- 異文化を認めようとする。

前時まで
ゲストティーチャーの国の米料理の材料をそろえておく。
（テープに吹き込んだものから聞き取って準備する。）

6、本時の展開

児童の活動			教師のかかわり
英語活動	交流・体験活動	調べ・準備活動	
自己紹介 材料の確認 GTの紹介 OK？ Is it good? Please check What's this?			すすんでゲストティーチャー（以降GT）を迎え自らかかわるよう支援 材料確認に必要な言葉を確認しておく かかわり方についての後押し助言
じっくり話してお米料理を作ろう			本時の流れについて確認
英語で料理の作り方を説明してもらおう Sorry Please wait. 調べてみよう 伝え方は？ 少しわかった！ もう1度聞いてみよう Please look at me. Please tell me Please show me わかったことをあわせてみよう わかったぞ やってみよう			ＧＴの言葉について速さなどをチェック児童にわかりやすいように ＧＴの指示に対しての反応 ・聞き返す ・お願いする ・わかったことを伝える ・わからない場合の反応 ・調べ方　　など 前時までの確認事項 前時までの既習事項についての助言
次のステップへ good delicious excellent			作業自体への安全への配慮
完成したぞ！ おいしそうだね 日本と違うね 日本と似てるよ うまくできたね 話できたね またやりたいね もっと話したいな 他にも作ろう			